

令和4年度 台東区地域包括支援センター事業報告

	センター名	ページ
1	あさくさ地域包括支援センター	1
2	やなか地域包括支援センター	3
3	みのわ地域包括支援センター	5
4	くらまえ地域包括支援センター	7
5	まつがや地域包括支援センター	9
6	たいとう地域包括支援センター	11
7	ほうらい地域包括支援センター	13

令和 4 年度 [あさくさ] 地域包括支援センター事業計画書
 法人名 【 社会福祉法人 台東区社会福祉事業団 】

◇今年度の重点課題

①	総合相談支援業務	地域包括支援センターの周知が不足している
②	総合相談支援業務	災害時に在宅避難を希望する方が多いが、日頃の備えが十分でない
③	権利擁護業務	経済的困窮により様々な問題を抱えている方が多い

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目 標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	地域包括支援センターの周知の強化	計画	—	地域での出前講座の実施や広報誌の配付等で地域包括支援センターの周知に努める。
		報告	—	通いの場やマンション住人、町会で出前講座を実施。また広報誌を2回発行し、センターの周知に努めた。
②	在宅避難についての防災意識の向上	計画	100件	一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯に対し、訪問時にチラシ等を活用しながら、住宅用火災警報器・家具転倒防止器具等の設置、非常時の備蓄品を準備する等の働きかけを行う。
		報告	96件	訪問時に防災意識向上のための働きかけは行ったが、各種事業の申請や備蓄品の準備に至ることは少なかった。
③	生活困窮者の支援に対応できる機関との連携	計画	—	行政の生活困窮者支援担当やフードバンクなどの団体等、活用できる制度や社会資源を把握し、必要時に備えた連携を図っていく。
		報告	—	生活困窮者からの相談は増えており、生活保護申請への同行やフードバンク等の社会資源を活用し、支援を行った。引き続き、資源の把握に努めて行く。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1 包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
 ※2 介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和3年度 No.	常勤(常) 非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2	令和4年度 No.	常勤(常) 非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
			社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士							その他	社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士			
1	常	40	○			○	○		10	○	○	1	常	40	○				○	○		11	○	○	
2	常	40	○			○		○	9	○	○	2	常	40	○			○		○		10	○	○	
3	常	40	○			○	○		6	○	○	3	常	40	○				○	○		7	○	○	
4	常	40		○		○			4	○	○	4	常	40		○			○			5	○	○	
5	常	40	○			○	○	○	14	○	○	5	常	40	○				○	○	○	15	○	○	
6	常	40		○	○				5	○	○	6	常	40		○	○					6	○	○	
7	常	40	○						2	○	○	7	常	40	○							3	○	○	
8	非	28				○		○	3		○	8	非	28							○	4		○	

その他の資格・・・NO. 8 柔道整復師

その他の資格・・・NO. 8 柔道整復師

◇年間計画表 エリア内の高齢者人口： 7,523人 (令和4年1月1日時点) あさくさ 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域ケア個別会議	計画	2回	←			←								
	報告	1回				←								
見守りネットワーク地区連絡会	計画	2回 60人 (延べ)	←			←								
	報告	2回 参加者 79名 (延べ)	←			←								
街づくり懇談会	計画	1回 参加 50人 程度	←			←								
	報告	1回 26名	←			←								
広報誌「笑顔の浅草」の発行	計画	2回 各500部	←			←								
	報告	2回 計1,100部	←			←								

<ケアマネジャー支援> エリア内の居宅介護支援事業所数： 10カ所 介護支援専門員数： 34名 (令和4年1月1日時点)

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャーの集い	計画	4回	←			←								
	報告	5回 140名	←			←								

<認知症総合支援事業> あさくさ 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ(喫茶YOU)	計画	6回 60人 (延べ)	←											
	報告	6回 178人 (延べ)	←											
認知症サポーター養成講座	計画	2回 40人 (延べ)	←											
	報告	3回 44人 (延べ)	←											
認知症初期集中支援推進事業	計画	1ケース 以上	←											
	報告	1ケース	←											
介護者サロン(ほのぼのの集い)	計画	12回 60人 (延べ)	←											
	報告	11回 92人 (延べ)	←											

<計画外の取組>

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
見守りサポーター養成講座	報告	5回 68人 (延べ)	←											

令和 4 年度 [やなか] 地域包括支援センター事業計画書
 法人名 【 社会福祉法人 台東区社会福祉事業団 】

◇今年度の重点課題

①	総合相談支援業務	地域包括支援センターの支援を必要としている高齢者の実態把握
②	権利擁護業務	虐待や特殊詐欺、消費者被害が疑われる相談が増加している
③	総合相談支援業務	災害時活動危険度、火災危険度が高い地域である

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	必要な支援を受けることが出来ずに、地域で孤立している高齢者や介護者の実態把握の強化	計画	-	民生委員や金融機関、医療機関、マンションの管理人等に加え、多くの高齢者が利用しているエリア内のコンビニエンスストア8か所に広報誌等を持参し、地域包括支援センターの役割を周知し、心配される高齢者について相談しやすい体制を整えていく。
		報告	-	地域包括支援センターの役割を広報誌やホームページで啓発し、地域の様々な資源と連携して実態把握や見守り活動を行うことができた。また広報誌の配布をきっかけにマンションの管理人から認知症サポーター養成講座の依頼などを受け実施することが出来た。
②	虐待や特殊詐欺等の被害が疑われる高齢者の早期発見、早期対応	計画	-	虐待防止の啓発や特殊詐欺等の最新の手法などの情報発信を警察や消費者相談窓口、金融機関等と連携を図りながら定期的に行い、高齢者の権利侵害の未然防止・拡大防止に努める。
		報告	-	地域のケアマネジャーを対象に、高齢者虐待をテーマに7包括合同ケアマネジャーの集いを開催し啓発を行った。また、詐欺被害の相談に対しては警察や消費者相談窓口と連携し、速やかに自動通話録音機の活用を勧める等の対応を行ったが、繰り返し被害に遭う事例もあった。
③	災害への対応力の強化と減災	計画	10人	消防署、危機・災害対策課、社会福祉協議会、民生委員、町会など地域の様々な資源と連携し、地域の災害特性を把握する。特に独居高齢者については、家具転倒防止器具の設置等を積極的に働きかけ、消防署と連携を図り10名の防火防災診断を実施する。
		報告	-	谷中3丁目住宅が密集して消防車が入れない地区があり、谷中2丁目、池之端1・2丁目は土砂災害特別警戒区域のため関係機関と引き続き情報共有をした。防火防災診断についてはコロナの影響もあり、実施には至らなかったが、消防からの依頼を受け引き続き家具転倒防止器具の設置等を含め災害に備えるための情報を提供した。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1 包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
 ※2 介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和3年度 No.	常勤(常) 非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2	令和4年度 No.	常勤(常) 非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2						
			社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士							その他	社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士				介護福祉士	その他				
1	常	40				○				○		15	○	○	1	常	40						○			○		16	○	○	
2	常	40								○		4	○	○	2	常	40							○			○		5	○	○
3	常	40	○									2	○	○	3	常	40	○										3	○	○	
4	常	40		○	○							6	○	○	4	常	40		○	○								7	○	○	
5	非	32										5		○	5	非	32											6		○	

その他の資格・・・

その他の資格・・・

◇年間計画表 エリア内の高齢者人口： 4,215人 (令和4年1月1日時点) やなか 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)															
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
地域ケア 個別会議	計画	地域の高齢者が抱えている個別課題を、本人や地域住民、専門職が集まりお互いの立場を理解しながら課題解決に繋げていけるような会議運営を目指す。また個別課題から地域課題を導き出すことが出来るよう意識して取り組む。	2回					↔	①		↔	②						
	報告	①認知症による被害妄想から地域住民に対して杖を振り回してしまう高齢者の事例 ②夜間帯に繰り返し道に迷い警察に保護されている高齢者の事例について警察、民生委員、CM、サービス事業所等と今後の方針について検討したが政策形成には至らなかった。	2回									①					②	
見守り ネットワーク 地区連絡会	計画	新任の民生委員や関係協力機関等と必要な情報を共有し、顔の見える関係づくりを継続していく。地区連絡会では包括の事業説明や実績報告を行い、事例検討を通じて地域課題について意見交換を積極的に行う機会を作る。	2回			↔	①						↔	②				
	報告	1回目は関係機関からの情報提供と『金銭管理の困難な独居高齢者の支援』をテーマにあんしん台東の講義をもとに意見交換を行った。2回目はACPをテーマに在宅療養支援窓口の講義をもとに日頃地域で行っている見守り活動についてそれぞれの立場で出来ることについて意見交換を行った。	2回		①								②				⑤	⑥
広報誌の発行 ・ホームページの 活用	計画	熱中症やインフルエンザ、詐欺等に関する情報を年4回テーマに沿って広報誌を作成し、回覧板や医療機関、薬局、民生委員、マンション管理人、金融機関、コンビニエンスストア等へ配布する。また、法人のホームページを活用した情報発信を行う。	4回	①			②				③				④			
	報告	防災や悪質詐欺被害予防のための自動通話録音機、熱中症対策や認知症カフェの周知を目的に作成し、ホームページの掲載や地域住民や民生委員、コンビニエンスストア、マンション、医療機関、薬局等に包括内で担当者を決め配布した。	3回		①				②			③						
出前講座	計画	地域包括支援センターの役割や詐欺、消費者被害や防火防災診断の啓発、介護予防に関する相談などの講座等について、町会単位の集まりや民生委員からの要請に積極的に対応していく。	3回	↔														
	報告	一部再開した町会行事等に参加し、認知症や介護予防、地域包括支援センターの役割をテーマに出前講座を行った。	3回			①					②							③

<ケアマネジャー支援> エリア内の居宅介護支援事業所数： 3カ所 介護支援専門員数： 7名 (令和4年1月1日時点)

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
ケアマネジャー の集い	計画	地域のケアマネジャーとの連携強化・資質向上を図るため事例検討会や勉強会、交流会などを開催する。	4回			①							②				
	報告	やなか包括主催で5月に地域福祉コーディネーターから、「社会資源の活用」について、11月に「激高しやすい利用者」の対応事例について客観的に面談できるトレーニング方法を学んだ。また、7包括合同で8月に8050問題、2月に養護者による虐待をテーマに開催した。	4回	①							②						④
	計画																
	報告																

<認知症総合支援事業> やなか 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
認知症カフェ (カフェやなか)	計画	【土田病院 (精神科)】 感染対策のためソーシャルディスタンスが保てる谷中区民館での開催を中心として、当事者や介護者等が安心して参加できるよう工夫する。内容については土田病院と連携し、体操や小物づくり、講義などを取り入れ開催する。	6回 60人 (延べ)	①		②		③		④		⑤		⑥			
	報告	【土田病院 (精神科)】 谷中区民会館で土田病院と共催で計7回開催した。内容は写真を持ち寄りながら交流を深める回想法や、手芸店のさくほりきりの協力により綺麗に仕上がる貼り絵の紹介、薬剤師による薬の知識や土田病院による認知症講座、11月には、包括単独でエンディングノートを書き方をテーマに開催した。また地域の認知症サポーターからカフェのプログラムの提案や講師などの協力を得ることが出来た。	7回 108人 (延べ)	①		②		③		④	⑤	⑥		⑦			
認知症 サポーター 養成講座	計画	町会、地域住民、各種機関、マンションや企業等へ講座開催の案内を配布し、感染対策を講じながら少人数で開催する。また、認知症 (若年性認知症も含む) に関する情報発信を行う。	2回 以上	↔													
	報告	認知症サポーター養成講座の啓発を定期的に行い、区との共催で1回、地域住民やマンション管理人、医療機関の相談員、認知症カフェに参加した手芸店の店員からの依頼を受けて少人数で5回の計6回開催した。養成講座では、それぞれの立場で認知症の理解を深め、今後サポーターとして地域で出来ることや親族の介護や自身の老後についても意見交換を行う機会となった。	6回 (38人)	①	②	③			④					⑤		⑥	
認知症初期集中支 援推進事業	計画	初期集中支援チームの一員として、事業の対象となるケースを選定し、各機関と連携を図りながら適切な支援に繋げていく。	1ケース 以上	↔													
	報告	他地域包括支援センターのケースのサブ担当として訪問や情報共有を行った。本事業の対象と思われる事例はあったが、本人、家族の同意が得られなかった。しかし土田病院と連携を図りながら受診を経て、通常の介護保険サービスの利用に繋がった。	サブケース 1	↔													
認知症の 実態把握 ・早期対応	計画	セキュリティが厳しく、高齢者の生活実態の把握が困難な高層マンション等に対して、管理人や管理会社、管理組合へ働きかけを行い実態把握・早期対応を行う。また多くの高齢者が利用しているコンビニエンスストアとの連携を強化していく。	適宜	↔													
	報告	地域の目が届きにくいオートロックマンションの管理人等に広報誌や認知症サポーター養成講座の案内を持参し、包括との信頼関係の構築に努めることで、養成講座の依頼や認知症が疑われるケースに関する相談を受けることが出来た。また、多くの高齢者が利用しているコンビニエンスストアから万引きや臭いのある客の報告を受け、情報共有をしながら連携を強化しサービスにつなげていく事ができた。	適宜	↔													

<計画外の取組>

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
	報告																
	報告																

令和 4 年度 [みのわ] 地域包括支援センター事業計画書
 法人名 【 社会福祉法人 台東区社会福祉事業団 】

◇今年度の重点課題

①	認知症総合支援事業	若年性の方を含む認知症の方や家族介護者への支援が不足している。
②	権利擁護業務	継続して虐待の通報や対応が増えている。 虐待の発生を予防する取り組みが不足している。
③	総合相談支援業務	災害時の避難対応や備蓄等、情報共有が不足している。 民生委員や見守り関係機関との連携強化が必要。

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目 標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	認知症の方と家族介護者への支援を強化する	計画	8回	認知症カフェ・みのわかカフェ等を実施し、認知症の方や家族介護者が相談できる場を増やす。
		報告	8回	認知症カフェ6回、みのわかカフェ2回開催。手芸や体操、回想法、東京都美術館での絵画鑑賞を実施。参加者も主体的に楽しめる企画とした。参加者同士交流できるよう工夫をした。
②	虐待防止の普及啓発と虐待発生の予防	計画	—	虐待防止の普及啓発を継続し、虐待に繋がる恐れのあるケースについて居宅介護支援事業所・サービス事業者等と共有し、早期対応を行う。
		報告	—	7包括合同ケアマネジャーの集いで虐待対応に関する研修を実施。虐待に繋がる恐れのあるケースについて、早期発見・対応を呼びかけた。
③	災害への意識を高める	計画	—	広報誌の配布や見守りネットワーク地区連絡会を通して、民生委員や見守り関係者等との顔の見える関係作りを強化し、災害への意識を高める。
		報告	—	ラジオ体操会場に3回出向き地域包括支援センターの周知を実施。見守りネットワーク連絡会を2回開催し水害の特徴や高齢者の避難の仕方等を学んだ。タイムライン、ハザードマップを使ってイメージを膨らませつつ地域の防災意識を高めた。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1 包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
 ※2 介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和3年度 No.	常勤(常)・非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	介護予防ケアマネジメント※2	令和4年度 No.	常勤(常)・非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	介護予防ケアマネジメント※2	
			社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士						その他	社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士			介護福祉士
1	常	40	○		○		○		11	○	○	1	常	40	○			○		○		12	○	○
2	常	40	○				○		16	○	○	2	常	40	○				○			17	○	○
3	常	40				○	○		4	○	○	3	常	40				○	○		5	○	○	
4	常	40		○		○			6	○	○	4	常	40		○		○			7	○	○	
5	常	40	○						6	○	○	5	常	40	○						7	○	○	
6	非	32	○						4	○	○	6	非	32	○						5	○	○	
7	非	24		○					13	○	○													

その他の資格・・・

その他の資格・・・

◇年間計画表 エリア内の高齢者人口： 6,528人 (令和4年1月1日時点) みのわ 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域ケア 個別会議	計画	2ケース	① 計画・開催			② 計画・開催			① 評価			②		
	報告	2ケース	①		① 評価		②		② 評価					
見守り ネットワーク 地区連絡会	計画	2回	① 計画・開催			② 計画・開催								
	報告	2回	①				②							
広報誌の配布・ ホームページによる 周知活動	計画	3回配布 + ホーム ページ	①		②		③		ホームページ更新					
	報告	3回配布 + ホーム ページ	①		②		③		ホームページ更新					
ケアマネジャー の集い	計画	4回	①		③ 7 包括合同			④ 7 包括合同						
	報告	4回	①		③ 7 包括合同			④ 7 包括合同			②			

<ケアマネジャー支援> エリア内の居宅介護支援事業所数： 9カ所 介護支援専門員数： 24名 (令和4年1月1日時点)

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャー の集い	計画	4回	①		③ 7 包括合同			④ 7 包括合同						
	報告	4回	①		③ 7 包括合同			④ 7 包括合同			②			

<認知症総合支援事業>

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ (喫茶YOU)	計画	6回 60人	①		②		③		④		⑤		⑥	
	報告	6回 178人 (延べ)	打ち合わせ・開催		打ち合わせ・開催		打ち合わせ・開催		打ち合わせ・開催		打ち合わせ・開催		打ち合わせ・開催	
認知症カフェ (みのわかフェ)	計画	2回	①			②								
	報告	2回 (延べ 21人)							①		②			
認知症 サポーター 養成講座	計画	4回	町会や各事業所等へ講座の案内を行ない、新型コロナウイルス感染再拡大の状況に応じてオンラインもしくは集合型で開催する。											
	報告	3回 (延べ 24人)	①		②		③							
認知症の 普及啓発活動	計画	2回	地域へ働きかけを行ない、ケアパスの配布や認知症予防に関する出前講座を開催する。新型コロナウイルス感染再拡大の状況に応じてオンラインもしくは集合型で実施する。											
	報告	4回 (延べ 131人)	⑤		①		②		③		④		⑦	
認知症初期集中 支援事業	計画	1ケース	認知症の疑いのある方に対して訪問支援による早期対応を行ない、適切な医療や介護に繋げる。											
	実施	0ケース	チームの一員として認知症または認知症の疑いのある人への訪問・支援を行った。(R5年度も継続)											

<計画外の取組>

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
転倒予防・介護 予防普及啓発	報告	3月に 2回 59人 (延べ)	併設の三ノ輪福祉センターロビーで歩行分析アプリを使用し近隣の高齢者の歩行状態を測定・分析し結果をもとに転倒予防の啓発や既存の運動教室等を案内し転倒・介護予防の啓発をおこなった。											
介護予防普及啓 発	報告	10回 100人 (延べ)	併設の三ノ輪福祉センターロビーで健康サポーターの指導の下、座ったまま50分間全身体操・脳トレを実施。合わせて、ふれあい介護予防教室(オンライン)も実施し、地域高齢者の介護予防への意識啓発や健康への関心を高めた。											

令和 4 年度 [くらまえ] 地域包括支援センター事業計画書
 法人名 【 社会福祉法人 東京援護協会 】

◇今年度の重点課題

①	総合相談支援業務	独居高齢者に関する相談が増加している
②	認知症総合支援事業	認知症に関する相談が増えている

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目 標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	独居高齢者の実態把握と地域包括支援センターの周知	計画	—	相談履歴や見守り名簿、民生委員との連携を通じて独居高齢者の実態把握のために訪問を行い、必要な支援を早期に受けられるよう地域包括支援センターの周知・支援を行っていく。
		報告	—	独居高齢者の生活状況について民生委員と情報を共有し、状況に応じて同行訪問を行った。また、広報誌を配布するなど地域に出向き、地域包括支援センターの周知と見守り・実態把握を行った。
②	認知症高齢者の早期発見・早期対応	計画	—	初期集中支援推進事業を活用し、認知症地域支援推進員を中心に早期発見・早期対応することで、地域で暮らし続けるために必要な支援につなげる。窓口相談、出前講座等で認知症ケアパス等を活用。早期対応の必要性を周知する。
		報告	—	新規相談者に対して、認知症カフェへの参加を呼びかけ、定期利用につなげることができた。老人会の出前講座では認知症ケアパスを使い、早期対応の必要性について周知を行った。
		計画		
		報告		

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1 包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
 ※2 介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和3年度 No.	常勤(常)・非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2	令和4年度 No.	常勤(常)・非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
			社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士							その他	社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士			
1	常	40	○			○	○		12	○	○	1	常	40	○			○	○		13	○	○		
2	常	40	○			○	○		10	○	○	2	常	40	○			○	○		11	○	○		
3	常	40	○				○		6	○	○	3	常	40	○			○	○		7	○	○		
4	常	40	○				○		5	○	○	4	常	40	○			○			6	○	○		
5	常	40			○		○		6	○	○	5	常	40			○		○		7	○	○		
6	非	40					○		5		○	6	非	40				○			6		○		

その他の資格・・・

その他の資格・・・

◇年間計画表 エリア内の高齢者人口： 7,382人 (令和4年1月1日時点) くらまえ 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過(月)													
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
地域ケア個別会議	計画 新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、個別のケースを各専門職からの視点で検討を行う。また、関係機関や地域との連携・情報共有を深める場とする。	2回			準備	① 開催									準備	② 開催
主催	報告 「身寄りのない独居高齢者」、「精神疾患がありサービス未利用」の2事例で実施。地域で暮らして行くために見守りや介護サービス等の具体的な検討を行った。	2回							準備	① 開催					準備	② 開催
見守りネットワーク地区連絡会	計画 民生委員等の関係機関と協力しながら地域を訪問し、見守りが必要な方の早期発見に努める。啓発物品を活用し、熱中症予防の周知を強化。感染防止対策を行い、状況に応じて書面開催や少人数での開催とする。	2回			準備	① 開催									準備	② 開催
主催	報告 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1回目は書面開催とした。関係協力機関に資料提供を依頼し、民生委員へ配布。2回目は3年ぶりに集合での開催をする事ができ、事例検討(独居で近隣トラブルあり)を行った。	2回			準備			① 開催							準備	② 開催
出張相談(えがおの集い)	計画 感染防止対策を行いながら、老人福祉館で地域の高齢者の生活に役立つ講話を実施。必要に応じて出張相談や介護認定・介護サービスへのつなぎを行い、地域包括支援センターの役割を周知していく。	4回	①		準備	②		準備	③		準備	④		準備		
主催	報告 出張相談として毎月参加。地域包括支援センターからの情報提供は4回実施し、センターの周知、消費者トラブル、薬の基礎知識、認知症に関する事など、高齢者に身近な内容で実施した。	4回	①		準備	②		準備			準備	③	④		準備	
広報誌の発行	計画 健康に関する話題や介護保険・区のサービス等の情報発信を行い、訪問時等で地域包括支援センターの周知に活用。関係機関や窓口で配布する。	2回 200部			準備			① 発行							準備	② 発行
主催	報告 熱中症や介護予防、感染症、救急キットに関する内容で作成。窓口だけでなく、訪問時や出前講座等で配布した。	2回 200部			準備			① 発行							準備	② 発行

<ケアマネジャー支援> エリア内の居宅介護支援事業所数： 12カ所 介護支援専門員数： 31名 (令和4年1月1日時点)

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過(月)													
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
ケアマネジャーの集い	計画 感染防止対策を行って事例検討会を実施、スキルアップを図る。また、各専門職と相互理解を深め、連携を強化する為の研修を開催する(2回は7包括合同開催。感染状況により、WEB開催とする)	4回			準備	① 開催					準備	② 開催			準備	④ 開催
主催・共催	報告 ①事例検討会(支援を拒否する方への関り)②8050問題③高齢者の食事と栄養④虐待について～台東区の現状の課題～をテーマに開催した。アンケートでも参考になったとの意見が多かった。	4回 130名			合同			③ 開催			合同				④ 開催	
	計画															
	報告															

<認知症総合支援事業> くらまえ 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過(月)													
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
認知症カフェ(くらまえカフェ)	計画 【東京トータルライフクリニック】東京トータルライフクリニックと共催、2ヶ月に1回の開催予定。より多くの方に安心して参加頂けるよう、案内方法(電話・手紙・チラシ)を工夫する。安心して過ごせる場として、楽しく参加して頂ける企画を検討。引き続き感染防止対策をとりながら、安心して集える場として提供していく。	6回 約70人	準備	①	準備	②	準備	③	準備	④	準備	⑤	準備	⑥		
共催	報告 共催で計画通り計6回(介護とお金、認知症、免疫力、痛み、薬など)の開催が実施できた。コロナ禍であり、感染対策を実施しながら、安全に安心して集えるよう留意して実施することができた。	6回 78人				②		③		④		⑤		⑥		
認知症に関する普及啓発活動	計画 地域住民・企業・学校等に対し、認知症サポーター養成講座を三密を避けた場で開催。地域のシニアクラブや町会等の会合を活用し、認知症に対する理解を広めていけるよう、認知症講座(出前講座)や相談会等を企画・実施していく。	3回				①									③	
主催	報告 認知症サポーター養成講座を2回、出前講座を町会・シニアクラブで各1回実施した。民児協ブロック協議会では、認知症の方に関する見守りや認知症サポーターについて普及啓発活動を行なった。	4回			①			②				③			④	
認知症高齢者の早期発見・早期対応	計画 認知症高齢者の早期発見のため、地域住民・民生委員・町会・シニアクラブ・集合住宅の実理人・関係機関等と連携し、認知症の疑いがある高齢者の実態把握に努める。また必要に応じ個別支援を開始する。	通年														
主催	報告 地域住民や各関係機関等と連携を強化し、実態把握を行なった結果、早期発見・早期対応ができた。小規模多機能居宅介護(介護保険サービスの)導入や治療の再開(訪問診療)等の支援に繋げており、民生委員や地域住民とも連携して見守りを継続している。	通年														
認知症初期集中支援推進事業	計画 相談や実態把握を行う中で、事業の対象と思われるケースについて早期発見・早期対応ができるように支援を行う。対象者の把握から、初期集中支援の実施を通して、各機関と連携し、適切な支援に早期に繋げていく。	1ケース以上														
実施	報告 内部で対象ケースとして検討を行なったが、該当せず、選出することができなかった。	0ケース														

<計画外の取組>

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過(月)													
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
ふれあい介護予防教室(200M開催)	報告 ふれあい介護予防教室(オンライン)の会場として今年度も実施。7・8月は熱中症の恐れがあるため中止したが、毎月一定数の参加者があり、総合相談受付時にも事業の案内を実施した。	10回 (延べ29名)	①	②	③	中止	中止	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
ぼっちの会(自主グループ)	報告 地域住民で気軽にしゃべりする自主グループを立ち上げたいとの相談を受け、社会福祉協議会と連携し、立ち上げに協力した。3月～正式に活動開始。	相談7回 参加2回			相談	相談	相談			相談	相談	相談			相談	

令和 4 年度 [まつがや] 地域包括支援センター事業計画書
 法人名 【 社会福祉法人 東京援護協会 】

◇今年度の重点課題

①	生活支援体制整備事業	高齢者の問題が早期に発見しづらい。
②	総合事業の推進に関する事業	運動機能低下や認知症機能低下を感じる高齢者が増えている。
③	権利擁護業務	新型コロナウイルス感染症の影響で不安を抱える高齢者、家族が増加している。

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目 標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	地域包括支援センターに気軽に相談できるようにする。	計画	20回	高齢者の異変に気付きやすい環境にいる方等に地域包括支援センターの広報誌等を配布して周知活動や情報収集を行う。
		報告	25回	マンション管理人や見守り関係者に地域包括支援センターの広報誌や認知症に関する資料を配布し周知活動や情報収集を行った。
②	高齢者の介護予防の機会を増やす。	計画	2回	高齢者へ「健康体操DVD」等を配布や紹介を行い、シニアクラブ等に介護予防の運動の機会や小規模の集まりのきっかけをつくる。
		報告	2回	シニアクラブへの案内や既存のサロン活動の中で介護予防の体操を取り入れ「健康体操DVD」配布、窓口で常にDVDを視聴できるようにした。
③	虐待の早期発見につなげる。	計画	20事業所	介護事業所向けに、資料を作成して虐待啓発や周知活動を行う。
		報告	20事業所	区作成の虐待対応マニュアル等を活用し、台東区の高齢者虐待防止の研修案内や少数の事例検討会を通じて早期発見・防止策について話し合った。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1 包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
 ※2 介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和3年度 No.	常勤(常) 非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2	令和4年度 No.	常勤(常) 非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
			社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士							その他	社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士			
1	常	40	○			○			○	9	○	○	1	常	40	○			○			○	10	○	○
2	常	40	○		○		○			13	○	○	2	常	40	○		○		○			14	○	○
3	常	40		○	○				○	15	○	○	3	常	40		○	○				○	16	○	○
4	常	40	○				○	○		6	○	○	4	常	40	○				○	○		7	○	○
5	常	40					○	○	○	12	○	○	5	常	40				○		○	○	13	○	○
6	常	40				○		○	○	1	○	○	6	常	40				○		○	○	2	○	○
7	非	32					○	○		9	○	○	7	非	32					○	○		10	○	○
8	非	32	○				○			1	○	○	8	非	32	○				○			2	○	○
9													9												
10													10												

その他の資格・・・ 3助産師 5幼稚園教諭 6栄養士

その他の資格・・・ 3助産師 5幼稚園教諭 6栄養士

◇年間計画表 エリア内の高齢者人口： 8,132人 (令和4年1月1日時点) まつがや 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
地域ケア個別会議	計画	2回				①					②						
	報告	2回								①						②	
見守りネットワーク地区連絡会	計画	2回							①							②	
	報告	2回				①										②	
出張相談・出前講座	計画	10回 (100人)	①	②	③		④	⑤		⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
	報告	8回 (91人)	①	②	③	④		⑤				⑥	⑦	⑧			
サロン (ほっとルーム)	計画	5回 (45人)		①		②		③		④		⑤					
	報告	6回 (55人)		①		②		③		④		⑤				⑥	

<ケアマネジャー支援> エリア内の居宅介護支援事業所数： 14カ所 介護支援専門員数： 43名 (令和4年1月1日時点)

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
ケアマネジャーの集い	計画	4回		①						②							
	報告	4回														④	
主催・共催	計画	4回				①										②	
	報告	4回														③	
	計画																
	報告																

<認知症総合支援事業> まつがや 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
認知症カフェ (オレンジカフェ)	計画	6回		①		②		③		④		⑤		⑥			
	報告	6回		①		②		③		④		⑤		⑥			
認知症の普及啓発 (認知症サポーター養成講座)	計画	4回		①		②				③		④					
	報告	4回		①		②	③	④									
台東区の社会資源の考察	計画	12回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫			
	報告	12回	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫			
認知症初期集中支援推進事業	計画	1事例以上	→														
	報告	1事例	←														

<計画外の取組>

項目	内容	人数・数量 など	取組活動の経過 (月)														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
介護予防	報告	常時	←														
総合相談支援業務	報告	1回															

令和 4 年度 [たいとう] 地域包括支援センター事業計画書
 法人名 【 社会福祉法人 聖風会 】

◇今年度の重点課題

① 総合相談支援業務	高齢者の総合相談窓口としての周知が不足している。
② 生活支援体制整備事業	身体状況により、外出が難しい高齢者の買物手段の情報が不足している。ネットスーパー等を活用した、あらたな買物支援の方法を検討が必要。
③ 権利擁護業務	後見候補者の選定について、個別ケースにあわせた後見候補者の振り分けがおこなえていない。

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目 標	数値	目標に向けた具体的な取組
①	地域包括支援センターの周知	計画 広報誌 4回 講座2回	地域住民、医療機関や薬局、関係団体へ広報誌の配布や出前講座を開催し周知を図る。
		報告 広報誌 4回 講座5回	民生委員や見守り協定締結事業者へ広報誌を4回発行した。通いの場や自主サークル参加者に対し出張出前講座を5回開催し周知をおこなった。
②	買物が困難な高齢者が利用できる支援対策	計画 -	民間事業者やボランティアと協力・連携し、ネットスーパーなど高齢者の新たな買物手段を構築できるよう検討・試行する。
		報告 未開催	ネットスーパー事業を提供する事業者のアプリシステムの更新等が目標とする期間に終了しなかったため、令和4年度の開催はできなかった。
③	成年後見制度の利用促進	計画 -	個々のケースの課題やニーズから関係者で協議し、適切と思われる各専門職団体へつなげる。
		報告 3件	後見制度の導入が必要なケースに対し、課題やニーズを精査し、親族申立てに対して専門職を検討し適切につなげることができた。

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1 包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
 ※2 介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和3年度 No.	常勤(常)・非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2	令和4年度 No.	常勤(常)・非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2	
			社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士							その他	社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士				介護福祉士
1	常	40	○			○				12	○	○	1	常	40	○				○				13	○	○
2	常	40	○		○		○			9	○	○	2	常	40	○			○	○	○			10	○	○
3	常	40	○			○	○	○		6	○	○	3	常	40	○			○	○	○			7	○	○
4	常	40	○			○	○			4	○	○	4	常	40	○			○	○				5	○	○
5	常	40		○		○				1	○	○	5	常	40		○		○					2	○	○
6	常	40				○		○	○	3	○	○	6	常	40				○	○	○			4	○	○

その他の資格・・・

その他の資格・・・

◇年間計画表 エリア内の高齢者人口： 5,656人 (令和4年1月1日時点) たいとう 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域ケア個別会議	計画 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルに基づき個別支援と地域ネットワークづくりなどを目的とした自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議2ケース、地域ケア個別会議2ケースを開催する。	4ケース	←①	←②	←③						←④			
主催	報告 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議、地域ケア個別会議をそれぞれ1ケース開催した。	2ケース		←①	←②			①		②③				
見守りネットワーク地区連絡会	計画 前年度、新たに加わった見守り協力店のフォローアップを行いつつ、各機関へ情報提供や見守り活動時の注意点を会議や紙面で伝えていく。	2回 10~15人程度		←①					←②					
主催	報告 【第1回】感染症拡大防止のため開催は中止とし、民生委員に見守りについてアンケートを実施した。【第2回】民生委員に上野警察署より事故予防の講話とアンケート結果の報告、事例紹介を対面で行った。	20人		←①				←②						
広報誌の発行	計画 関係機関・地域住民向けに包括の周知とネットワーク作りのため、医療機関・民生委員等に配布する。	500部×4回	①	←②	←③	←④								
主催	報告 春夏秋冬の合計4回、広報誌を発行した。地域住民、民生委員や医療機関などの関係機関に配布した。	500部×4回	①	←②	←③	←④								
買い物支援	計画 インターネットでの買物方法について、講習会を開催する。	2回 5~10人程度	←①②③④											
共催	報告 実施に至らなかった。	未開催												

<ケアマネジャー支援> エリア内の居宅介護支援事業所数： 7カ所 介護支援専門員数 23名 (令和4年1月1日時点)

項目	内容	人数・数量など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャーの集い	計画 新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに基づき、コロナの感染状況をみて開催方法を検討し、情報提供や研修を開催する。	4回	←①						←③			←④		
主催・共済	報告 たいとう包括主催で5月に情報提供と意見交換、3月に公証役場と任意後見制度をテーマに研修を実施した。7包括合同のケアマネの集いは8月と2月に行った。	4回		①			②					③	④	
たいとうカフェ	計画 地域のケアマネジャー等から介護者のニーズを情報収集したうえで、包括内で検討し、家族同士の交流の場を作る。介護の相談、情報交換、勉強会などを行う。	1回	←①											
主催	報告 家族同士の交流の場について情報収集をしたが、交流の場は開催に至らなかった。9月にあさくさ包括家族会の「ほのほの会」を見学、1月に「家族介護を考える集い」にzoom参加、2月に足立区梅島包括の「行け、メンズと歩こう会」を見学し今後の家族立ち上げ支援に活かしていく予定。	0回												

<認知症総合支援事業>

たいとう 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
認知症カフェ(オレンジカフェ)	計画 【永寿総合病院認知症疾患センター、まつがや地域包括支援センター】カフェを年6回永寿総合病院にて開催予定。認知症の方、ご家族が気軽に語り合える交流の場や、認知症の理解を深める学びの機会を持っていただく。	6回	←①	←②	←③	←④	←⑤	←⑥						
共催	報告 永寿総合病院認知症疾患センター、まつがや地域包括支援センターと共催。開催場所は区役所、東上野区民館、東京都美術館、ケアハウス松が谷にて開催。参加人数は20名以内とし予約制で行い、毎回新規の方々にも声掛けをし参加していただいた。	6回		①	②	③	④	⑤	⑥					
認知症サポーター養成講座	計画 見守りサポーター養成講座や介護予防講座などが併せて行える体制を維持し、講座の依頼は積極的に受け、地域の方の認知症の理解を深める。	2回	←①②③④⑤⑥											
主催	報告 企業や民生委員、一般の方向けに認知症の症状や対応方法等の講座を行った。合わせて見守りサポーター養成講座も行い、地域で心配な高齢者の介入方法や連絡手段等の周知を行った。	3回			①			②					③	
初期集中支援推進事業	計画 認知症の方が住み慣れた地域で生活を続けられるよう、医療や介護サービスなど適切な支援に繋げる。	1事例	←①②③④⑤⑥											
実施	報告 医療、介護に繋がっていない認知症の症状がある独居の方を認知症コーディネーターとチーム員にて介入を行った。医療機関の受診をし介護保険サービスにも繋がり毎週の訪問看護にて見守り体制も構築できた。	1事例											①	
若年性認知症支援体制の検討	計画 若年性認知症支援のための新たな社会的資源の構築等、具体策を検討する。	通年	←①②③④⑤⑥											
共催	報告 若年性認知症支援について、新たな社会資源構築の検討会を開催予定であったが、実際の相談件数が少なく課題としての優先度が低いことから年度途中にて中止した。	中止												

<計画外の取組>

項目	内容	人数・数量など	取組活動の経過 (月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
8050問題・ダブルケアに対する研修	報告 相談件数が増えている8050問題に対する対応力を高めるため、杉並区で活動しているNPO団体の研修会に参加。研修会後、子育て・介護と仕事の両立支援についても意見交換を行えた。今後も必要に際し連携を図っていく。	1回												研修会参加
	報告													

令和 4 年度 [ほうらい] 地域包括支援センター事業計画書
 法人名 【 社会福祉法人 清峰会 】

◇今年度の重点課題

① 包括的・継続的 ケアマネジメント支援 業務	困難事例を抱えて悩んでいたりと、ネットワーク構築が難しいと感じている 介護支援専門員が多い
② 総合事業の推進に関する 事業	新型コロナウイルスの影響により、介護予防の需要が高まっている。

◇重点課題に対する目標と具体的な取組

課題番号	目 標		数値	目標に向けた具体的な取組
①	ケアマネジャーの集いを主任介護支援専門員分科会と共催する	計画	1回	主任介護支援専門員の分科会と協力し、ケアマネジャーの集いを開催し、困難事例の共有や多職種との地域ネットワークづくりを行う。
		報告	0回	包括内の主任介護支援専門員が計画作成時と変更になり、分科会との調整が難しくなり開催できなかった。
②	地域住民に対して通いの場づくりを働きかける	計画	-	区と東京都介護予防・フレイル予防推進センターと連携し、ほうらい地域の特性を活かした通いの場づくりへのアプローチを行う。
		報告	3回	区や社会福祉協議会、東京都介護予防・フレイル予防推進センターと通いの場会議を重ね、個人宅と銭湯にて通いの場の説明会とお話し会を行うことができた。
		計画		
		報告		

◇地域包括支援センター人員体制状況

※1 包括的支援業務とは総合相談・権利擁護・包括的継続的マネジメント支援業務を指す。
 ※2 介護予防ケアマネジメントとは介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を指す。

令和3年度 No.	常勤(常) 非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2	令和4年度 No.	常勤(常) 非常勤(非)	週の勤務時間(残業除く)	資格(持っているもの全てに○)							包括実務経験年数(年)	包括的支援業務※1	介護予防ケアマネジメント※2
			社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士	介護福祉士							その他	社会福祉士	保健師	看護師	主任介護支援専門員	介護支援専門員	精神保健福祉士			
1	常	40	○						9	○	○	1	常	40	○							10	○	○	
2	常	40	○			○	○	○	8	○	○	2	常	40	○			○	○	○	○	9	○	○	
3	常	40			○				8	○	○	3	常	40			○					9	○	○	
4	常	40	○				○		3	○	○	4	常	40	○				○			4	○	○	
5	常	40		○	○		○		4	○	○	5	常	40		○	○		○			5	○	○	

その他の資格・・・

その他の資格・・・

◇年間計画表 エリア内の高齢者人口： 6,175人 (令和4年1月1日時点) ほうらい 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量など	取組活動の経過(月)												
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
地域ケア個別会議	計画	年2回以上開催する事で、ほうらい地域での生活課題の発見や、社会資源の把握、開発につなげる。開催方法は新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し開催する。	2回	←①準備・開催			←②準備・開催			←①評価					
	報告	コロナで法人内の施設が利用できなかったが、オンラインや清川出張所を利用して4回、地域ケア会議を開催できた。	4回	←①←②		←③←④		←①←②		←③←④		←①←②			
見守りネットワーク地区連絡会	計画	コロナ禍における見守りに関する関係者と意見交換や事例検討を行う。開催方法は感染状況を考慮し適切な方法を選択していく。	2回 参加者50人(延べ)	←①準備・開催			←②準備・開催			←①←②					
	報告	①コロナ禍での見守りに関するグループワークを実施した②改選により新たに就任した民生委員向けに見守りネットワークについてグループワークを行った	参加者①37人②21人	←①準備・開催			←②準備・開催			←①←②					
介護予防の推進	計画	区と東京都介護予防・フレイル予防推進センターと連携し、地域データを分析・活用しながら、ほうらい地域の特性を活かした通いの場づくりの検討会議を行う。	-	← 随時											
	報告	通いの場づくりの会議を重ね、年度内に通いの場の説明会とお試し会を計3回実施した。うち銭湯を活用した通いの場は、通いの場立ち上げに向けて来年度以降も支援していく。	3回	←①←②		←⑦←③		←④		←⑤		←⑧←⑥		←⑨	
見守りネットワーク地区連絡会	計画	区と東京都介護予防・フレイル予防推進センターと連携し、地域データを分析・活用しながら、ほうらい地域の特性を活かした通いの場づくりの検討会議を行う。	-	← 随時											
	報告	通いの場づくりの会議を重ね、年度内に通いの場の説明会とお試し会を計3回実施した。うち銭湯を活用した通いの場は、通いの場立ち上げに向けて来年度以降も支援していく。	3回	←①←②		←⑦←③		←④		←⑤		←⑧←⑥		←⑨	
見守りネットワーク地区連絡会	計画	区と東京都介護予防・フレイル予防推進センターと連携し、地域データを分析・活用しながら、ほうらい地域の特性を活かした通いの場づくりの検討会議を行う。	-	← 随時											
	報告	通いの場づくりの会議を重ね、年度内に通いの場の説明会とお試し会を計3回実施した。うち銭湯を活用した通いの場は、通いの場立ち上げに向けて来年度以降も支援していく。	3回	←①←②		←⑦←③		←④		←⑤		←⑧←⑥		←⑨	
見守りネットワーク地区連絡会	計画	区と東京都介護予防・フレイル予防推進センターと連携し、地域データを分析・活用しながら、ほうらい地域の特性を活かした通いの場づくりの検討会議を行う。	-	← 随時											
	報告	通いの場づくりの会議を重ね、年度内に通いの場の説明会とお試し会を計3回実施した。うち銭湯を活用した通いの場は、通いの場立ち上げに向けて来年度以降も支援していく。	3回	←①←②		←⑦←③		←④		←⑤		←⑧←⑥		←⑨	
見守りネットワーク地区連絡会	計画	区と東京都介護予防・フレイル予防推進センターと連携し、地域データを分析・活用しながら、ほうらい地域の特性を活かした通いの場づくりの検討会議を行う。	-	← 随時											
	報告	通いの場づくりの会議を重ね、年度内に通いの場の説明会とお試し会を計3回実施した。うち銭湯を活用した通いの場は、通いの場立ち上げに向けて来年度以降も支援していく。	3回	←①←②		←⑦←③		←④		←⑤		←⑧←⑥		←⑨	

<認知症総合支援事業> ほうらい 地域包括支援センター

項目	内容	人数・数量など	取組活動の経過(月)												
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
認知症カフェ(あさがおカフェ)	計画	【浅草病院】認知症の本人と家族、地域の方が気軽に参加できる場を浅草病院と共催で運営する。浅草病院のPTによる体操、OTによる作業療法など強みを活かした取り組みを行う。新型コロナウイルス流行状況に応じて適切な感染対策を行う。	6回 参加者60人(延べ)	←①←②←③←④←⑤←⑥											
	報告	【浅草病院】参加者同士の交流が深まっている。毎回平均1組程度、新規の参加者がいた。9月以降、地域住民ボランティアが定着し、毎回平均2名のボランティアが活動している。	6回 参加者108人(延べ)	←①←②←③←④←⑤←⑥											
認知症サポーター養成講座	計画	町会や職域など様々な立場の方に対して講座を実施する。自身や家族の物忘れが心配な方が区民向け認知症セミナーに参加し、実態把握に繋がるよう積極的に開催する。新型コロナウイルス流行状況に応じて適切な実施方法を選択する。	4回 参加者60人(延べ)	←①←②←③←④											
	報告	地域住民、芸術家、大学生など幅広い層に対して講座を実施した。受講をきっかけに認知症カフェのボランティアや、認知症の方が参加する地域活動のサポートに参加した方がいた。	3回 参加者25人(延べ)	←①←②←③											
認知症初期集中支援推進事業	計画	初期集中支援チームのチーム員として、対象者の把握から訪問支援を実施する。認知症のケースを推進員と他の職員で情報共有し、適切なケース選定を行う。	1ケース以上	←①											
	報告	初期集中支援チーム員(サブ)として1ケースに関わった。訪問支援や受診同行、連絡調整等を行った。	1ケース(サブ)	←①											
若年性認知症の人とその家族の居場所づくり	計画	行政や他包括の認知症地域支援推進員、認知症疾患医療センター等と連携し、若年性認知症の方とその家族の居場所づくりについて具体策を検討する。	12回	←①←②←③←④←⑤←⑥←⑦←⑧←⑨←⑩←⑪←⑫											
	報告	認知症の人の居場所づくりについて他包括と連携して検討した上で、他包括が担当している若年性認知症の方について、ほうらい包括の地域で行われた地域活動にボランティアで参加してもらった調整をするなど、包括間の連携で社会参加を支援する活動を行った。	12回	←①←②←③←④←⑤←⑥←⑦←⑧←⑨←⑩←⑪←⑫											

<ケアマネジャー支援> エリア内の居宅介護支援事業所数： 4カ所 介護支援専門員数 8名 (令和4年1月1日時点)

項目	内容	人数・数量など	取組活動の経過(月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ケアマネジャーの集い	計画	地域のケアマネジャーとの意見交換の場や情報提供として開催(2回)包括合同のケアマネジャーの集いの開催(2回)	4回	←①		←③		←④		←②		←④		
	報告	「認知症の家族介護者のための認知行動療法とリハビリ職を知る」をテーマとし、ほうらいケアマネの集いを2回開催した。また、7つの包括合同のケアマネの集いを「8050問題と虐待について」をテーマにそれぞれ2回開催した。	2回(①37人②18人)包括合同(③27人④64人)	←①②ほうらい		←③④包括合同		←①		←②		←④		
地域連携を勧める会	計画	山谷地域で活動しているNPO団体や医療機関、介護事業所と共催で研修会や意見交換会を開き地域のネットワークを強化していく。	3回	←①		←②		←③		←①		←②		
	報告	zoom等のオンラインを活用し、地域のネットワークを作る場や研修会、シンポジウムを開催することができた。		←①		←②		←③		←①		←②		←③

<計画外の取組>

項目	内容	人数・数量など	取組活動の経過(月)											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
家族介護者(認知症)向けストレスケアプログラムの実施	報告	認知症家族介護者向けのストレスケアプログラムを、臨床心理士、訪問看護師とチームを組んで運営した。8月にケアマネジャー対象の勉強会を開催し37名が参加した。包括からの紹介、ケアマネジャーからの紹介により募集定員の6名予約(当日欠席者あり)を受け付けた。	3回 参加者12名(延べ)	←準備		←研修会		←①②③		←①②③		←①②③		
	報告													